

ゆくゆくはみかん畑を背負って海を眺められる ようなところに住みたいと思っていました

湯河原〈ゆくゆくの里〉 鈴木眞人（76歳） 平成31年1月 一人入居

生徒の味方、熱血教師と 音楽教師の妻

高校の教師をしていました。どっちかというと、はみ出しっ子とか登校拒否の子とか家庭に問題のある子の立場に立っていつも駆けずり回っていました。東大に行くような生徒から、取り残されていくような生徒まで全部面倒を見ました。女房は音楽教師。共働きなので、先に帰った方がご飯の支度をするのが我が家の大原則でした。共働きという結婚形態を選択したら男女同権が原則です。

学年主任をやっていた40代半ばに、ストレスが溜まって倒れました。白血病だったのです。告知するかどうか医者が女房に確認した

ところ、彼女

は告知して欲しいと言ったそうです。「ウソをつきっぱなしじゃ、本人も納得しないし私も気持ち悪い」と。女房も辛

かったと思います。ずっと先、と思っていた死が割と近くにあるのはショックでした。覚悟して治療に入りましたが、抗癌剤のおかげで生還できました。58歳の時に早期退職の話があり、僕が弁当を作るから辞めさせてくれと言ったら女房がいいわよと言うので、本当に毎日弁当を作って送り出し、晩ご飯を作って女房の帰りを待つことになりました。本を3冊自費出版できたのも早期退職のおかげです。

「あなた先に行つてらっしゃい」

老後を考え出したきつかけは、親父が亡くなり、遺品を3年かけて処分した時です。何でこんな捨てないんだろ、自分の場合は、こんなことを息子にさせたくない。思いたてばすぐやる性分なので、女房と入る墓を買って、荷物の整理をして、元氣なうちに自立型のホームに入ろうということになりました。僕は海の無い県で育ったせいで、ゆくゆくはみかん畑を背負って海を眺められるようなところに住みたいと思っていました。へゆうの里」と出会って「それが



ここにある！」と、急に入りたくなっちゃった。女房はコーラスの指揮の仕事があるから、まだ入れないが、「あなた先に行つてらっしゃいよ」と背中を押してくれました。僕は入居してから月に一度くらいは自宅に帰るし一緒に旅行にも行きます。今、女房は有り余る時間を使つて凄く楽しんでいます。

趣味の写真がライフワークに

僕はここに来て、こんなに写真に没頭する人生が来るとは思いもしなかったです。楽しい。あつという間に時間が経つ。入居して写真サークルに入つて、藤村さんや市橋さんと出会つていなければ今は無いです。先日、サークルの市橋さんにタケノコの写真を見てもらったら、「題名は？」と聞かれ、

『今に見てろ！』はいかがでしよるか」と答えると、「それ、いいね！」と賛成して



鈴木様の作品、『今に見てろ！』

くださいました。タケノコの気持ちが表示できたようですぐに決定しました。タイトルと写真がうまくマッチした瞬間です。写真は趣味じゃないです。ライフワークなんです。

湯河原・真鶴はおもてなしと アートに溢れている

できる限り歩こうと決めています。露天の野菜やみかんを買うことも。先日、農家の軒先でザクロを買った時、その農家のおばさんがザクロ酢の話をするので、どんなものか聞くと「そうだね、2ヶ月くらいしたらおいで」って言うんです。2、3ヶ月経つて通りがかったら、何と「あんたが来るのを待ってたよ」と、ザクロ酢を出してきてくれました。

湯河原には歴史があり街歩きも楽しいです。「湯河原・真鶴アート散歩」実行委員会の企画がもの凄く楽しかった。いろんな道を知るきっかけになりました。美術館といつても町立美術館から個人の家や店まで沢山あります。例えば「飛ぶ魚」ってカフェがあつて、絵本作家を招いていろんな催し物をやっています。画家とフェルト作家の奥さんが開放している家もあります。「空中散歩館」は行つてみてびっくり。芸術一家の現代アート館です。こんな素晴らしいスポットが見えてくると、湯河原・真鶴が益々好きになります。